

## (2)がん検診

がんは、横浜市民の死因の第1位であり、生涯のうちに約2人に1人ががんに罹患すると推計されています。がんによる死亡率を減少させるためには、喫煙、飲酒、食生活、運動などの生活習慣を通じた予防に加え、検診により、治療効果の高い早期のうちに、がんを発見することが重要です。

市民の行動目標							
がん検診 	育ち・学びの世代			働き・子育て世代		実りの世代	
	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢前期	高齢後期
				定期的ながん検診を受ける			

### 定期的ながん検診を受ける(働き・子育て/実りの世代)

現状・課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和3年(2021年)の横浜市民の死亡数のうち、約3割の死因を悪性新生物が占めています。</li> <li>○全国と比較し、男性は結腸、女性は悪性新生物の総数と乳房の標準化死亡比(平成28年(2016年)~令和2年(2020年)の合算)が有意に高くなっています。</li> <li>○新型コロナウイルス感染症の拡大時には、がん検診の受診控えも見られ、受診率の向上が改めての課題となっています。また、がん検診受診率が死亡率の減少に直結していない場合もあり、がんの早期発見・早期治療には、がん検診と精密検査両方の受診率向上が必要となっています。</li> </ul>

目指す姿
<p>定期的ながん検診を受けています。 必要な精密検査を受けています。</p>





目標	指標(直接成果)	直近値	目標値
定期的にがん検診を受ける市民を増やします。	胃がん検診受診率 (50～69歳の過去2年間)	全体50.2% 男性57.1% 女性43.6% (R4(2022)年)	全体60%以上 男性60%以上 女性60%以上 (R10(2028)年)
	肺がん検診受診率 (40～69歳の過去1年間)	全体49.2% 男性54.8% 女性43.9% (R4(2022)年)	全体60%以上 男性60%以上 女性60%以上 (R10(2028)年)
	大腸がん検診受診率 (40～69歳の過去1年間)	全体48.6% 男性52.0% 女性45.6% (R4(2022)年)	全体60%以上 男性60%以上 女性60%以上 (R10(2028)年)
	乳がん検診受診率 (40～69歳の過去2年間)	女性50.5% (R4(2022)年)	女性60%以上 (R10(2028)年)
	子宮頸がん検診受診率 (20～69歳の過去2年間)	女性43.6% (R4(2022)年)	女性60%以上 (R10(2028)年)

取組を推進する10の視点の中で特に取り入れるもの




- ① 将来を見据えた健康づくり
- ② 性差を踏まえたヘルスリテラシー支援
- ⑤ つながりで進める健康づくり
- ⑦ デジタル技術の有効活用
- ⑨ 産学官連携・共創
- ⑩ 前計画からの継続課題

	ライフステージ	取組内容
行政の取組	働き・子育て 	○がん検診に興味を持ってもらうため、SNSなどを活用し、対象年齢前の市民を含めた若い世代への啓発を行います。
	働き・子育て/実り 	○直接的に受診勧奨を行うため、対象年齢となる全市民へがん検診の個別勧奨通知を送付します。 ○普段から自分の乳房の状態に関心を持ち、がんの早期発見、早期治療につなげることができるよう、ブレスト・アウェアネス*の啓発を行います。 ○区イベントや地域団体による活動等を通し、がん検診の啓発や、がん予防のための禁煙、節酒等に関する啓発を行います。 ○要精密検査と判定された人への精密検査受診勧奨を強化します。

※「ブレスト・アウェアネス」とは、女性自身が自分の乳房の状態に関心を持つ生活習慣のことです。具体的には4つのポイントがあります。

- ①自分の乳房の状態を知る
- ②乳房の変化に気をつける
- ③変化に気づいたらすぐ医師に相談する
- ④40歳になったら2年に1回乳がん検診を受ける

これらのことを意識することで、乳がんの早期発見、早期治療につなげることができます。

	ライフステージ	取組内容
関係機関・団体の取組	働き・子育て/実り 	○保健医療関係団体として、各種がん検診の精度管理を充実させます。 ○健康づくりのきっかけ作りと重症化予防のため、地域でがん検診の普及啓発を行います。 ○マスメディアとして、市民が定期的ながん検診を受け、予防、早期発見につながるよう、新聞紙面等を活用し、定期的ながん予防の啓発を行います。